

同窓生の絆の強さについて語る大分みらい信用金庫理事長の森田展弘さん（別府市）



大分大
経済学部
100周年

同窓生の思い

プロフィール 大分市出身。1979年に卒業後、別府信用金庫（現・大分みらい信用金庫）に入庫した。常勤理事・別府営業統括本店営業部長、常務理事・融資部門担当を経て、2018年6月から理事長。

◇中◇

女性の活躍について語る美装管理社長の高野浩子さん（別府市）



プロフィール 別府市出身。別府青山高を経て、1986年に卒業後、父・板井一夫氏（享年86）が起した総合ビルメンテナンス業の美装管理（別府市）に入社した。2007年7月、社長に就いた。県中小企業家同友会代表理事、県ビルメンテナンス協会副会長、県労働委員会使用者委員などを務める。

先輩、後輩の絆大事に

大分みらい信用金庫理事長

森田展弘さん（65）

【大分】「在学中の思い出は。」

「配送や実演販売などアルバイトをした。明るさ、接客態度、お客さまに喜んでもらう大事さを学んだ」

「仕事のやりがいは。」

「信用金庫は中小零細企業を営む皆さんと話ができる。苦労に耳を傾け、いろ

んな人生を疑似体験し、自分自身の大きな糧となった」

「大分大経済学部を卒業したことで役立ったことは。」

女性の存在感示して

県中小企業家同友会代表理事

高野浩子さん（59）

【大分】「在学当時と現在のキャンパスについて違いを感じますか。」

「当時は学部には在籍する女性は少数派。校舎には女子トイレが1カ所しかなかった。現在は学生全体の4割ほどまで増えたと聞きます。良いことで歓迎したい」

「同窓会、四極会の女性

「女性」の社会進出について、どう考えますか。

「自分自身、『桃優会』を2018年に立ち上げた。『自分に似合う色のパーソナルカラーや、マナーと食事を開催。楽しい時間を過ごして、明日への活力を蓄えるとともに連帯を強くしています」

「県内には大分大出身者が多い。先輩、後輩の絆が強く、同窓だということと親近感を持ってもらい、大事にしています」

「何事にも情熱を持って取り組む熱い人間が必要とされている。アルバイトやボランティア活動などでさまざまな人や組織とのネットワークを広げてほしい」

（聞き手・指原祐輔）